

# 令和5年度岡山県立記録資料館運営協議会 議事録(概要)

1 日 時 令和5年10月20日(金) 10:00~12:00

2 場 所 岡山県立記録資料館 研修室

## 3 出席者

(委 員) 岡田智美、奥田哲也、沢山美果子、築島尚、服部真理  
(敬称略、50音順)

(事務局) 岡山県立記録資料館館長 杉山一雄 ほか2名

4 傍聴者 なし

5 開会あいさつ

6 委員紹介

7 職員紹介

## 8 議 題

- (1) 令和4年度事業報告について
- (2) 令和5年度事業の現況等について
- (3) 令和6年度事業計画(案)について

## 9 議 事

- (1) 令和4年度事業報告について  
(事務局から説明)

(委 員) ①年報29ページ記載の所蔵資料展「海へ行こうー空からみた海岸線ー」について、32ページには中止とあるが、別の企画か。

②16ページにある閲覧室の資料利用申請者の状況を見ると東京都と神奈川県から合わせて30人近く来ており、京都府からも20人が利用している。観光のためバスで乗り付けたというようなものだったのか。

(事務局) ①前年度開催予定だったが、コロナの影響で休館となって流れてしまい、一年越しで開催出来たものだ。

②一人の利用者が何回も通ってくるケースがあり、延べ人数が増える要因となっている。学生が中心だが、東京都からの公文書の閲覧者は厚労省の委託事業で3人がチームになり2～3回来館した例もあった。

(委員) 普及啓発など色々な事業一つ一つをかなり細かく丁寧にやっていると感じており、資料の保存を始めとしてこんなにも多くの仕事があることに驚いている。非常に存在意義のある館であるとの印象を持った。

(委員) ①年報5～6ページの古文書の寄贈について、寄贈の申し出と実際に寄贈されたものの数には差があるか。申し出全部を受入れできない場合は、どのように選別するのか。

②高齢の家族が亡くなり、家には置いておけないという理由で遺品の寄贈を希望している人が増えているとの報道があるが、当館でも近年そのように感じているか。

(事務局) ①寄贈申し出数自体は、実際の寄贈受入れ数に加えて5から10件ぐらい多い。相談を受けたときに聞き取りを行うが、実際に原物資料を見ないと受入れの判断がつかないので、ご自宅に伺ったり、持参いただいたりして実物を見ながら話をさせてもらい、収集基準に照らした上で最終的にお返ししたケースはある。

②コロナ発生以降、家の片付けなどの関係で相談を受けることが増えているのは確かだ。コロナ禍でなかなか現地に出向くことが出来ず、立ち消えになったケースも少なからずあった。最近では遺品整理とともに、本人の終活や家仕舞いを理由にお話をいただくことが増えていると感じる。

(委員) 有松家の文書については地元で利用してほしいとのことで寄贈申込みがあり、併せて多くの中性紙保存箱が寄贈されたのはすごいことだ。同家の当主がそのように判断したのは、以前当館で同家の資料を使った展示なども行うなど、当館が地元の資料を地域の基盤として使っているという信頼感が大きく影響したと理解してよいのか。

(事務局) 寄贈者からの最初のアプローチは、「有松英義の資料を郷土岡山の人々に広く利用してもらいたいと切望する」との相談の電話だった。当館の概要や寄贈に係る手順等について説明するとともに、資料の重要性から当館で寄贈を受け入れて活用したいと伝えたところ、当館へ送られてきた。

(委員) 地元の資料を地元で保存して利用に供することは理想的だ。

(委員) 年報4ページに所蔵資料数が約31万点とある。毎年すごい量が増えており心配している。きらめきプラザの地階もあるとの説明があったが、今後、どれくらい増える見込みで、きらめきプラザを使えばどれくらいの年数までもつか。

(事務局) 当館書庫などに棚増しをしたので、あと5年はもたせたいと考えている。平成17年開館のときの目標は「15年間で一杯になる」予定だったので、既に年数は経過していることになる。量が増えているのは公文書より古文書だが、きらめきプラザの地下倉庫の資料保存環境は劣悪であるため保存袋に入れて仮置きすることしかできず、十分活用できていない。5年以内には検討する必要があると考えている。

(委員) ①中性紙保存箱一箱当たりの単価はいくらか。

②会計年度任用職員はどのような基準で採用しているのか。

(事務局) ①平均すると5～6,000円くらいである。

②会計年度任用職員には8時30分から17時15分まで週5日間勤務のフルタイム任用職員と9時から17時まで月に17日勤務する短時間任用職員の2種類があり、専門員は后者である。フルタイム職員は県庁の試験により採用されている一方、古文書や公文書整理などの専門員は、当館で専門試験と面接を行って一年契約で採用しており、最大2回まで延長できることから連続して3年勤務することが可能だ。

(委員) 3年経過した職員が新たに試験を受ければ、さらに任用されることも可能ということか。

(事務局) そうだ。

## (2) 令和5年度事業の現況等について

(事務局から説明)

- (委員) ①資料3ページにあるTACベースのマイクロフィルムとは何か。
- ②狭隘化問題に関し、図書館等では古くて使用頻度が低い資料や他から入手可能なものは順次処分しており、当館においても将来的には除却することを念頭に置いているのか。
- ③年報4ページで当館ホームページの月別アクセス数が驚異的に伸びている。検索システムを整備したとの説明があったが、これが数倍のレベルまで増えた要因なのか。
- (事務局) ①マイクロフィルムの材質の一つであり、TACベース以外にはPETベースのものがある。県史編纂室時代など平成より前に作られたものはTACベースで、劣化しやすい素材のため、酸化が進み劣化し始めており、保存のため安定した素材のPETベースで順次複製している。
- ②除却について念頭にないわけではないが、まだ所蔵資料全ての登録ができておらず、まずは全てを登録した後の次の段階として考えている。新規登録作業を行いながら利用状況を踏まえ、廃棄基準を整備した上で、将来的には廃棄の可否を検討したい。
- ③3月1日にシステム更新を行ったが、その更新は小さなものであり、3月の伸びは機能確認やメンテナンスの結果だと理解していたが、4月以降も高い数値で推移している。これは画像数を増やしたこと、また、検索ワードがヒットしやすいように変えたことがアクセス数の伸びにつながったのではないかと推測している。ただそれが本当に数倍まで増えた原因なのかは、利用状況と比較しながら検証中だ。
- (委員) なぜそのように増えたのかというところはぜひ検証してもらいたい。
- (委員) ホームページを少し変えるだけでアクセス数が3倍、4倍になったのは驚きだ。何かを調べたいとか、機会があれば当館へ足を運びたいという潜在的なニーズがあるのだと思う。最近、学生は探求学習で色々なことを調べさせられており、記録資料館への検索が役立つのかも知れないと感じた。
- (委員) 同じくこの驚異的な伸びはなぜなのかを聞きたいと思った。検索ワードを増やすだけでこんな結果が出るなら色々なところに活用できるし、展示などに生かすことができれば面白いと感じた。

### (3) 令和6年度事業計画（案）について

（事務局から説明）

（委員） ここ何年かのコロナの時代というものについて是非、記録、収集してもらいたい。コロナの時期にはどういう報道がなされて、人々の生活がどう変わって、人々の意識はどうだったのかということを残せば、将来、大変貴重なものになると考える。振り返れば、わずか数年前にコロナという得体の知れないものがやってきて、県内でもパニックになったり、嘘の情報が流れたりした。

人々が不合理な動き方をすることも分かった。皆が忘れてしまわないうちにコロナの特集のようなものを行うことも検討してもらいたい。

（事務局） 当館と新型コロナウイルス感染症対策室とは協議していない。当館ではチラシや各種申請書、県庁からの通達等の紙類は残すことを前提に集めているものの、県民意識に関するデータの収集などは手が付いておらず、今後の課題だ。

（委員） 利用者の立場からは、各種申請をホームページから行うことができるようになり、とても便利だと感じている。当館に来た時に大変効率的に仕事ができる。

また、紀要第18号が良いのは、職員が企画展示を行う中で気付いたことを書いていることであり、企画展示と研究、紀要が連携している。紀要というものは査読が中心となっており、研究者だけしかアクセスしなくなっている中で、当館の紀要には独自性があり、これからも特色ある取組みとして続けてほしい。

（委員） うらばなし（展示解説）は、職員自身が研究する中で「本当はこうだったのだ」というようなさらなる観点からの説明が入ったものなのか。

（事務局） 展示品説明スペースが限られており、説明しきれなかったことやスペースの関係で展示できなかった画像などを使いながら、より深く展示を見てもらうために企画したものだ。

（委員） 一つの研究に色々な角度からアプローチするということで、広がりのある非常に新鮮で面白い試みだと思った。

（委員） コロナ禍では体制が変わったので大変だったと思うが、コロナが明けたら明けたで展示等の行事が再開し、忙しくしていると思う。職員の数が少ない中、非常に多くの仕事に取り組んでいると再認識した。ボランティアの方も含め、

くれぐれも健康に留意してほしい。

(委員) 書庫の満杯が近づいているため、空き施設の検討を行うとのことだが、アテはあるのか。近年寄贈が増えてきているとの説明があった。

(事務局) いくつか個別の施設を当たっている状況だ。この建物自体は隣のきらめきプラザも含めて老朽化しているが、建て替えは難しいだろう。民間倉庫の借り上げも検討しているが、実現は難しい。

(委員) 資料という特性上、かなり環境が良くないと駄目なのか。

(事務局) 重要なのは湿気がないことであり、警備システムがあれば、より理想的だが、そういうところはなかなかない。完全に密封状態にした物品もあり、寄贈されたときの木箱や看板など大きなものを置くスペースが確保できればその分だけ書庫内に資料を収納できる。

#### (4) その他

(委員) 年報23ページに岡山県文化財等救済ネットワーク研修会の記載があるが、文化財の救済とはどういった危機に対し、どのような対策をするものなのか。

(事務局) 当該ネットワークは県の文化財課に事務局があり、美術館、博物館を始めいろいろな団体が加入している。指定文化財のみならず民間が持っている無指定の文化財や歴史資料に対し、災害に遭った際にそれらをどうレスキューをするかについて、得意分野を生かしながら行うためのネットワークだ。

## 10 閉会あいさつ

・館長あいさつ